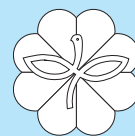


市民協なかやま

岡山市



第38号

平成26年11月1日



アユモドキ

濟世 アユモドキは旭川、吉井川と淀川水系にだけ生息が確認されているドジョウの仲間の淡水魚で、1977（昭和52）年に国の天然記念物、2004（平成16）年に種の保存法により国内稀少野生動植物に指定されています。

体の形や肌の色などが鮎に似ていることから、アユモドキといわれています。

親魚の体長は8～20cmで、体には暗褐色の横縞が7～11本あります。3対のヒゲをもつ顔つきからドジョウの仲間であることがわかります。しかし、他のドジョウと比べると、体はやや扁平で体高が高く、尾ビレの後ろの縁が深く切れ込んでおり、泳ぐ力に優れていることがわかります。

繁殖期になると、河川の増水や水田の灌漑によって生じた一時的な水場のうち、流れが緩やかで陸生植物が生い茂り、一定期間水位の低下のない環境でのみ産卵し、その後約24時間程度でふ化します。

ふ化した直後は透明で、目も口も未発達で、おなかに付いている卵黄から栄養を得、泳げるようになるまで口から出した糸のようなもので植物などにぶら下がります。泳げるようになると石の陰などの隠れ場所の多いところへ移動して、イトミミズや水生昆虫などを食べて成長します。昼間は石垣の隙間や石の陰などに隠れるのを好みます。

アユモドキの生息地が減少したのは、戦後の護岸改修やコンクリート化による親魚の生息域の減少や、水田の圃場整備による産卵場所へのアクセス経路の遮断などにより、生息できる場所がなくなったことが大きく影響しているものと考えられています。

この貴重なアユモドキを守るために、岡山市では、①アユモドキの保護・増殖のため、人工繁殖や生息地の巡回 ②アユモドキの分布と生態の調査 ③アユモドキの保全啓発のため水辺教室や展示会などを行っています。

岡山市立高島公民館 館長 岸 仁



この広報誌は、共同募金配分金の一部をつかって作成しています。

就任のごあいさつ



岡山市民生委員
児童委員協議会
会長 岸本 俊男
(北区中央／
弘西地区)

昨年の一斉改選を経て、会長として再任を受けました岸本 俊男でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在、岡山市民生委員児童委員協議会は、六つの福祉区民生委員児童委員協議会を発足させ、新体制づくりに取り組んでおります。

また、七月十七日から十八日にかけて、中国地方各地から六十余名の民生委員・児童委員の代表者の方々にご参加いただき、「中国ブロック民生委員・児童委員関係事業会議」を、岡山市が政令指定都市となつて初開催いたしました。その際お配りした資料のなかの、小さな記事を次に抜粋します。

『大正五（一九一六）年、地方长官会議の場で、笠井信一岡山県知事は、大正天皇から「県下の貧民の状

況はどうか」と御下問を受け、すぐに県内の実情を調査。県民の一割が悲惨な生活状態にあることが判明し、事態の重大さに日夜研究を重ね、大正六（一九一七）年、「済世顧問設置規定」を公布、民生委員制度の源とされる、済世顧問制度が生まれました。』

岡山は民生委員制度発祥の地であり、三年後には百周年を迎えます。全国民生委員児童委員連合会では、天皇、皇后両陛下をお迎えしての記念式典が計画されておりますが、岡山においても、岡山市・岡山県両民生委員・児童委員連携のうえ、発祥の地らしい事業を計画して参りたいと考えております。

この三年間は、百周年に向けて大変重要な時期であるとともに、民生委員制度の本質に思いを巡らせる時であると考えております。

みなさま方のご協力を得て、お知恵もお借りしながら、会を運営して参りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

役職	福祉区・部	地区・役職	氏 名
常任理事	北区中央	内山下	辻 正子
		清 輝	内山 久暉
		出 石	水野 浩
		吉 備	佐藤 韶子
	北区北	御 津	戸田 元宣
	中区	旭 竜	八代 武利
		平 井	光延 弘雅
		操 明	堀本 光久
	東区	西大寺南	光岡 勝
		朝 日	伊加 博
	南区西	興 除	阪本 康己
	南区南	小 串	柴田 洪喜
		浦 安	森上 綾子
会計	地域福祉推進部	部 長	泉 照子
	主任児童委員部	部 長	長壽 和子
	北区北	津 島	田淵 正志
	北区北	建 部	本田 茂子
	中区	幡 多	遠藤 壽一
	南区南	甲 浦	荒城 賢真



副会長
高山 学
(中区／
竜之口地区)



副会長
笠井 祥司
(北区北／
高松地区)



副会長
上平 智一
(北区中央／
鹿田地区)



副会長
岩藤 修昌
(南区南／
芳明地区)



副会長
小銭 純宏
(南区西／
妹尾地区)



副会長
松井 義孝
(東区／豊地区)

新しい任期がはじまるにあたって

三年に一度の一斉改選にあたって、民生委員・児童委員の委嘱を受けた方々に抱負を寄せていただきました。



北区 深柢地区
岡本 治代

この度、前任の方から「体調がすぐれないので、後任を引き受けてもらえないか」と、お話をいただき、「お受けさせていただきます」とずいぶん簡単に返事をいたしました。地域にとってどれほど重要な立場かも知らずに：

何もわからないまま、先輩民生委員・児童委員の方のお力添えのもと、地域の方々と訪問させていただきました。高齢のひとり暮らし、老夫婦のみの方々がこんなに大勢いらっしやることをはじめて知りました。次々訪問させていただくなかで、地域の方々との信頼関係を築き、しっかりと福祉活動をさせていただくことの大切さを改めて痛感いたしました。

なかなか名前と顔、家が一致しないで戸惑うことばかりですが、顔見知りの方もでき、道端で会ってあいさつを交わせる方も少しずつ増え、今までと少し地域の見方が変わってきたように思います。

新任者研修、安全パトロール、旭川荘児童院のボランティア活動などいろいろな行事にも参加させていただき、そのなかで経験したことを、地域の福祉に、また個別訪問する際に、少しでも役立てていきたいと思っています。

訪問すると喜んで一時間以上も身の上話や近況を話してくださいる方、「入って、入って」と言ってくださいる方、なかには、「まだ民生委員の方のお世話になる年ではありませんせん」と言われる方もありますが、その人その人に適した接し方で取り組んでいき、地域のみなさまに信頼されるよう努力していきたいと思えます。



中区 幡多地区
二神 博志

私が民生委員・児童委員の活動を身近に感じましたのは、



二十五年前、実家でひとり暮らしの母が転倒により軽度の障害者手帳を携帯して暮らすことになった時でした。民生委員・児童委員の方が、度々、母を訪ねてください、母は「大変心強く、安心して暮らせる」と話してくれました。ボランティアとして、地域に根ざした地道な活動をされていると感じました。

この度、幡多地区民生委員・児童委員の委嘱を受けましたが、その当時とは、世相も変わっているように思えます。

過日、幼い子どもの遺棄致死事件が報道されました。「パパ、パパ」と呼びかける声に背を向けて去っていく父親を見ながら、絶望の感情がわき起こったのではないのでしょうか。不憫でなりません。

また、私の住む町内の空き地で、中学生が夜中に大騒ぎをし、翌日から、警官がパトロールを重ねる事態となりました。青少年の心の爆発を癒す術はあるのでしょうか。

それから、施設でお会いした九十歳のご婦人が、「夕べ、お迎えに来てくださったのに連れて行ってくださらなかった」と嘆かれたのを受け、私は「天国も予約で一杯なのでですね。それでしたら、ご家族の毎日の健康をお祈りされたらいかがですか?」と、つまらない、生意気な言葉で応えてしまいました。人生いろいろ、通り一遍の言葉では、心は通わないとつくづく思いました。

本年三月に、新任者研修を受講させていただきました。民生委員・児童委員の活動の内容は、多岐にわたっていてびっくりしました。私のこれまでの人生経験だけでは、とてもこなせない福祉活動だと感じています。

これから、もっと努力をして、監視するための目ではなく、また観察するだけの目でもない、温かい眼差しで見守る目の一つになって活動していきたいと思っています。



東区 太伯地区
根本 一江

インターホンを押す。「ピンポン」と鳴っている。「はい」と奥の方で声がする。なかなか出て来ない。やっと出て来てくれた。話がはじまる。一日話す相手もなく、どうやって過ごしていたのだろうか、うなずきながら考えた。これは困った。勝手が違う。どんな人がどんな思いで過ごしているのか想像がつかなかった。

そのうち、災害時要援護者避難支援台帳が届いた。多い！ まずこれをきっかけに地域を歩いてみようかと考えた。

こんなところにこんな家があったんだ。こんなところにこんな人が住んでいたんだ。知らないことだらけだ。

ほぼ二十年、主任児童委員をしてきた。安心して任せられる相棒もできたし、バトンタッチする新人もできた。一斉改選にあたり、私が住む区域を担当していた民生委員・児童

委員の前任者も退くことになっていった。渡りに船だった。これまで一緒に活動してきたのだから大丈夫だと思った。だが、引き継ぎの書類の多さに、そのなかの福祉票の分厚さに当惑した。

太伯地区の子どもの顔と名前とはほとんどわかっていった。寄り添って関わっていかねばならない幾人かの子どもの背景もわかっていった。成長するにつれて変化があった。立つ場所が違っているとこんなにも見えてくる風景が変わるのかと思った。気にならない苗字がこんなにも多いとも思わなかった。

でも、まあ、背伸びせずに私らしくこれからゆつくり地域をわかっていこうと自分に言い聞かせた。困っている人がいつでも相談できるよう、誰よりも低いところにいて、こぼれてきた愚痴や寂しさを受けとめて寄り添っていったらいいなと考えた。今までと基本は一緒だと思いうから。



南区 福浜地区
濱崎 昌典

最初の民生委員・児童委員の委嘱から早十二年が経ち、今回の委嘱となりました。

当時、その選任に苦慮されていた町内会長で中学校の恩師から「自分を育ててくれた地域への恩返し」の話を聞き、感銘し、微力ながらお役に立ちたいと決心したことを思い出します。

在職中であつた私は、その役割や活動内容について無知で、戸惑いや不安がありました。が、先輩や同僚の励ましやご指導と、地域住民の方々のご協力で、どうにか続けてこれたと思っています。

昨今の新聞やテレビなどの報道から知る日常生活のさまざまな出来事には心の痛むものがあります。

少子・高齢化やひとり暮らし世帯の増加、高齢者の介護や認知症にともなう行方不明の問題、あるいは子どもへの虐待や育児放棄、生活困窮者の増加、地震や異常気象による災

害の問題など生活を脅かす要因が増大しています。これらの問題は、民生委員・児童委員の役割と活動内容にも深く関係しています。

日常生活が困難となったひとり暮らし高齢者や認知症高齢者の対応で苦慮されているご家族との相談のなかで、活動のむずかしさを感じることはありません。個人情報保護や守秘義務が問われるなかでの相談や支援は簡単ではありません。知識とスキルと経験が必要と感じています。地域社会の実情把握も付かず離れずの対応になります。

これまでの活動のなかでさまざまな問題の発見者は地域住民の方々です。この度の委嘱に際し、現在も在職中ではありますが、改めて民生委員・児童委員信条を確認し、地域の方々とコミュニケーションを高め、早期の対応で信頼関係を構築していきたいと思えます。問題を抱えた方々が地域社会から孤立しないよう行政機関や地域団体との橋渡し役でありたいと思っています。みなさまのご指導の程よろしくお願いいたします。

地域福祉推進部

～研修を通じて人材育成～

昨年の民生委員・児童委員の一斉改選を経て、新たな地域福祉推進部がスタートを切りました。

地域福祉推進部は、多様化する福祉問題に対応するため、教養を高め、地域のさまざまなニーズに対応できる人材を育成すること、またそれを通じて民生委員・児童委員活動の強化推進を図ることを目的としています。

過去三年間は、発達障害（平成二十三年度）、精神障害（平成二十四年度）、認知症（平成二十五年）と、しっかりと勉強したところです。

また、ボランティア活動も実施しています。

旭川荘にて、入所者の音楽活動の補助、散歩の介助、車いすの掃除・点検、おむつたたみ、庭木の剪定、病棟の掃除等、毎週月曜日の午前中に、地区の民生委員・児童委員に参加を呼びかけ、協力をお願いして実施しております。

さて、平成

二十六年度は

「いじめ、不

登校」をテー

マに、研修を

すすめていき

ます。

九月には、不登校の子どもを支援しているNPO法人ステップの



原昌広さんと、岡山市教育委員会から竹中茂樹さんを講師に迎え、不登校の子どもの現状とその支援についてお話を聞きました。十一月には、不登校などさまざまな理由で既存の学校になじめない子どもに教育の機会を保障する全国でもまれな小・中併設の学校、おかやま希望学園を訪問させていただく予定です。

福祉事務所の所管区域、「福祉区」ごとに設置された福祉区民生委員児童委員協議会では、岡山市社会福祉協議会が事務局をしていただけることになり、福祉区ごとの研修もより一層できるようになるものと期待しています。

主任児童委員部

～多くの方々とつながりながら活動～

主任児童委員制度がはじまって、ちょうど二十年を迎えました。最近では、子どもへの虐待、子どもの貧困、発達障害やひきこもりなど子どもと子育て家庭をめぐる課題は複雑・多様化し、また深刻化しています。二十年前と違い、現在では家庭が孤立に陥り、必要な支援が届かないといったことも起こっています。そんななか、私たちの活動は、ますます重要となってくると思います。

岡山市には、百五十名の主任児童委員があり、それぞれの地域を担当する民生委員・児童委員と密接に連携を図りながら活動しています。そうすることで、地域に根差した活動につながっています。

また、小学校一年生のいる家庭に主任児童委員広報用フライヤー（ハガキ大のカード）を配布したり、学校やPTA等と連携した地域活動を行ったりすることで、身近に相談できる人がいることを知らせるようになります。

さらに、登下校時の声かけや見守

り、学校や地域の行事に参加して顔見知りになることで、安心して接することができるよう身近な大人として子どもたちが私たちを認めてくれます。

最後に、専門機関に「つなぐ」という私たちの本来の役割を忘れてはなりません。そのために関係機関との密接な連携が大切です。

これらのことに留意し、また、思い起こしながら今期の活動を推進していきたいと思っています。

最近の子ども・子育てを取り巻く環境を考えると、今まで以上にスキルアップしていくこと、愛育委員をはじめ子育てに関わりの深い機関や団体とさらに協力しあっていくことが必要だと考えています。今後より多くの方々とつながりながら活動していきたいと思っています。



中国ブロック民生委員・児童委員関係事業会議

開催記

岡山市民生委員児童委員協議会

副会長 高山 学

七月十七日から十八日の二日間にわたり、「中国ブロック民生委員・児童委員関係事業会議」を、岡山市民生委員児童委員協議会主催で開催いたしました。

これは、中国地方の五県と二政令指定都市の民生委員児童委員協議会が順に開催しているもので、平成二十一年度に岡山市が政令指定都市となり、この度、初開催となったものです。開催に至るまで、何度も打ち合わせを重ね、準備を整えてきました。

当日は中国地方の民生委員・児童委員の代表者の方々、全国社会福祉協議会及び全国民生委員児童委員連合会より六十余名のご参加をいただき、大過なく、また、盛大に開催することができました。

開 会

岡山市民生委員児童委員協議会

岸本会長の開会あいさつでは、岡山が民生委員・児童委員制度の発祥の地であることなど紹介されました。

また、全国

民生委員児童委員連合会会長 堀江様より、開催地に対する労いのお言葉と、平成二十九年に迎える民生委員・児童委員制度創設百周年に向けた全国民生委員児童委員連合会の取り組みについての報告等をいただきました。

続いて、岡山市保健福祉局長 那須様のあいさつでは、所在不明児童や認知症高齢者の行方不明問題等に対する取り組みと、地域で活動する民生委員・児童委員との連携などに触れられました。



基調報告

全国社会福祉協議会民生部副部長

平井様より、「民生委員・児童委員活動をめぐる動向等について」と題して基調報告がなされました。

そのなかで、民生委員・児童委員が活動しやすい環境整備が喫緊の課題であり、そのために積極的なPR活動、経験の浅い民生委員・児童委員への支援の強化、定例会の工夫や研修の充実のほか、今年度よりはじまった民生委員・児童委員活動保険制度などについて触れられました。

分散会

四つの分散会では熱心かつ活発な議論がなされました。

二日目の全体会での報告から垣間見える、それぞれの分散会での議論をご紹介します。



第一分散会

…福祉委員制度がうまく機能すれば地域づくりに大変効果的だが、地域によっては、必ずしもそうならない例も見受けられる。生活困窮者自立支援制度では、民生委員・児童委員は相談窓口へのつなぎ役であって解決者ではない。

第二分散会

…自力避難困難者に対する支援には、地域の関係機関・団体との連携と協働が重要であり、そのような支援組織の確立が急がれる。

第三分散会

…自治体の周知活動とともに、民生委員・児童委員自らが地域行事などに積極的に参加し、住民から親しみやすい存在と認識されることが重要。

第四分散会

…個人情報提供にあたっては、自治体は審議会で審議する必要がある、目的と理由、情報の範囲を具体的に提示して審議ができる状況をつくっていくことも必要。

紙面の都合で、議論の一部しかご紹介できませんでしたが、次期開催地の島根県民生委員児童委員協議会会長 堀江様と私のあいさつで閉会となり、無事初開催の重任を果たすことができました。

岡山市寄り添い サポートセンター

生活困窮からの
一日も早い脱却のために

平成二十七年年度から「生活困窮者自立支援法」が施行され、生活困窮者対策が本格化されます。

厳しい社会・経済状況が続くなか、近年、生活保護の受給者のほか生活困窮に陥る危険性の高い人が増えています。このような状況を受けて、生活困窮者が抱えるさまざまな課題に対応するとともに、生活保護に陥る前の段階で自立を支援するため「生活困窮者自立支援法」が制定されました。

現在、全国各地で「生活困窮者自立支援モデル事業」が実施されています。岡山市では、平成二十五年十二月から私たち岡山市社会福祉協議会が岡山市からの委託を受け、「寄り添いサポートセンター」を設置してこれに取り組んでいます。

対象者は、生活困窮の状態にあり、生活保護に陥る可能性のある人で、援助により自立が見込まれる人で

※ひとりで悩まないで...
生活のこと 仕事のこと 家計のこと
回りこして悩んでいませんか？

お困りには
ご相談ください

岡山市寄り添い
サポートセンター

フリーダイヤル つまり はなもー
0800-200-8730 (秘密厳守)

相談日 月曜日～金曜日 8:30～17:00
お休み 土曜日・日曜日・祝日 年末年始

【センター所在】

岡山市北区鹿田町一丁目1-1
岡山市保健福祉会館7階
岡山市社会福祉協議会内

す。公的な支援が届きにくい生活困窮者のなかには、各種の支援機関や制度・サービスがあることを知らない人や相談窓口に行くことができない人、自らSOSを発信することができずひとりで悩みを抱え込む人々が多く、さまざまな問題が潜在化しています。当センターでは、そうした方々の気持ちに寄り添い、ご本人と一緒に課題の解決に向けた支援をさせていただきます。

また、手探りの状況ではありますが、地域のみなさまからのご相談、ご協力により、生活困窮者の早期支援につなげていけるよう努めて参ります。

水彩画との出会い



北区 建部地区
富田 健

退職して田舎に帰り、一年半ほど経ったある日、「水彩画教室に入らないか」との誘いがあつた。

今まで絵にはほとんど関心がなく、農作業に夢中になっていた私が水彩画に出会うこととなった。

教室は月に一回、モデルは花や野菜、果物、干物、観葉植物などの静物。年二回は屋外で風景を描くが、これは楽しみの一つである。

先生に筆や絵の具、画板などそろえていただき、最初のモデルに向かったときの緊張感は忘れられない。スケッチも色付けも、さてどこからはじめてよいかわからず困惑したものである。

目に見えている色、隠れた色、最初に塗った色をどこに残しな

がら次の色を重ね、さらに同じようにして三回くらいでその物の色を出す。光と影、奥行き、絵の広がりなどなど、ひと筆ひと筆描き加えることで絵はどんどん変わっていく。

あれから約十年、「何で下手なんだ、上手くならないんだ」と何度も思った自分であるが、今は何とか絵ではなく、「絵画」が描けそうになってきた。

実はこの教室、家内と一緒に通っているのだが、絵を描きはじめてからお互いの物を見る目線が変わってきた。歩いているとき、あるいは車のなかから、今まで漫然と見ていた物が、四季折々変化する周囲の風景、刻々と変わる空の雲、水の色、また花にも果物にも、じつと見ているといろんな「隠された色」があり、それを思い考えながら見ると感動をおぼえる。その一つ一つが共通の話題となり、夫婦の会話が増えたことも大きな収穫だ。

水彩画との出会い、先生や仲間との出会い、いつまでも大切にしたい。

文芸欄

絵画(パステル画)



北区 建部地区 本田 茂子

下手の横好きですが気分転換に、暇な時に楽しんでいきます。

竹細工



南区 妹尾地区 眞野 健二

竹細工をはじめて五年が——。日々楽しみながら製作しています。

◆委員より◆ 文芸欄を募集します。写真・絵・工芸・俳句など自薦他薦は問いません。事務局までご連絡ください。
事務局(福祉援護課内) ☎086-803-1218

編集後記

昨年暮れの一斉改選による諸先輩方のご退任にともない、広報委員会も新たなメンバーでスタートし、委員一同非常に盛り上がっています。

民児協おかやま第三十八号を発行するにあたり、新任・再任の方々の抱負をはじめ、中国ブロック民生委員・児童委員関係事業会議開催記、文芸欄などご寄稿いただきました方々には、ご多忙のなかにも関わりませうご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

広報委員一同、これからもより充実した紙面となるよう取り組んで参ります。どうぞ一層のご指導・ご鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。

戸田 元宣 記

